京都先端科学大学が力を注ぐキャリア教育は、卒業後の就職だけに照準を合わせているわけではない。人生100年時代を見据え、働くことの意味や意義、将来どんな姿でありたいかを学生たち自身に徹底して考えてもらうという。「社会で活躍できる人材」になれるよう、様々な仕掛けを提供して、自身の知識・能力・スキルへの気づきや学びを深め、人間力向上につなげていく狙いだ。

京都先端科学大学
キャリアディベロップメントセンター長
経済経営学部 経営学科 特任教授
宇田川雄彦 氏
Utagawa Takehiko

1年生から学ぶキャリアデザイン――理想の人生を主体的に創り上げる力を身につける

人生100年時代に向けたキャリア教育
4年間で「人間力偏差値」向上目指す

「京都先端科学大学のキャリア教育は『就職のためだけに偏りすぎない』のが特徴です」。2021年春からキャリアディベロップメントセンター長に就任した宇田川雄彦氏は、長い人生の先々を見据えた4年間であることを強調する。

以前のキャリア教育や就職支援は学部ごとの取り組みだったが、2020年初夏に改革プロジェクトがスタート。総合旅行会社の国内最大手JTBの執行役員を務め上げた宇田川氏も中心メンバーとして参画し、全学で体系化したキャリア教育の骨格が出来上がった。かつて新卒採用の面接をした経験をこう語る。

「面接では出身大学なんて確認しませんでした。評価の基準にしたのは『自分が上司ならこの人を育ててみたい、一緒に働きたい』『この人ならお客様にかわいがってもらえる』といった、人としての魅力、人間力です。本学のキャリア教育も、在学4年間で『人間力偏差値』の向上を目指しており、人として成長してもらうために様々な仕掛けやカリキュラムを用意しています。どこかの企業に就職できればいいのではなく、人生100年時代を生き抜くためにどんなキャリアを描くのか、そのために大学で何を学ぶのかを自分で考え、自分で行動してほしいと考えています」

重要かつ有効な施策の一つと位置づけているのがグループワークだ。コロナ禍にあってもオンラインではなく対面にこだわったのは、人の表情や間合いを読み取ることに慣れてもらうためだ。

「人の話を聞くこと、自分の考えや意見を伝えることが苦手な学生は少なくありません。そこで、グループワークではほかの学生とコミュニケーションを取るために、毎回メンバーを入れ替えています。回を重ねるごとに、『みんなも同じように悩みや不安を抱えているんだ』と実感して安堵・安心できるようです」。

課題の解決策をまとめていくことで考える力が身につく。また、自分のキャリアや将来に対するイメージが湧き、積極的にアクションに移す学生も増えているという。「ある学生は苦手な英語と向き合い、280点程度だったTOEICが1年半で700点まで上がったのには驚きました。興味・関心があるものに出合ったときの成長力はすごいですね」と宇田川氏は相好を崩す。

自分事として捉える様々な仕掛け

「大学4年間を漫然と過ごし、安易に職業や企業を決めてほしくありません。だからこそ、1年生から将来のキャリアについて考えてもらうんです」。そのカリキュラムを考え、講義も担当する准教授の三保紀裕氏はこう続ける。

在学中の4年間、自分のキャリアについて“考えに考え抜く場”を用意

「キャリア教育」 ― 1年生から企業や社会人との接点を

キャリア教育のカリキュラム表

	1年生	2年生	3年生	4年生
キャリア教育（正課）	人生100年時代の働き方 ●働く意味を理解する ●社会の実態を理解する ［企業・仕事・雇用環境・お金など］ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	●企業との接点を増やす ［インターンシップなど］ ●就職基礎力を身につける ［コミュニケーション力・主体性など］ 各専門科目［キャリア意識醸成］ キャリア形成実践演習Ⅰ	●就職基礎力を身につける ［表現力・論理的思考力・説得力など］ キャリア形成実践演習Ⅱ	●4年間の集大成へ ●自律的な人財へ 2022年度実績 ■参加者 265人 ■受け入れ先企業 国内93社／海外24社
	インターンシップ・プログラム			
就職支援	就職支援（就職支援行事、個人面談など）			

「働くことの意味や意義を考えるとともに、日本が直面する社会の構造変化、世界における日本の競争力低下など、現状や現実を知ってもらいます。情報化、AIによる自動化で業務が変わり、中にはなくなる職業もあるでしょう。4年生になって時代や社会の変化について知識がないのはリスクでしかありません。そのまま就職しても理想と現実のギャップにショックを受けて早期離職につながります。だからこそ、変化に対応して乗り越えられる力を付けることが重要なんです」

特に関心の高い講義がマネーリテラシーだ。「正規雇用と非正規雇用の処遇の違い、業界・職種の平均給与や生涯賃金、税金関係などの話はみんな食い付きます（笑）。グループワークでも自分と異なる意見と接することで気づきが生まれ、視野が広がります。そして“自己理解”が進めばキャリアの選択肢が広がり、ひいては大学での学修意欲やインターンシップへの参加意欲につながります。一人ひとりが自分事として捉えることが重要で、そのための仕掛けづくりに努めています」。

京都先端科学大学
経済経営学部 経済学科 准教授
三保紀裕 氏
Miho Norihiro

国内・海外インターンシップの参加者は、2022年度には全学で計265人と、4年前の5倍以上に上った。受け入れ先企業も国内外20業種・100社以上と着実に増えている。インターンシップの集大成となるのが、実習生全員が一堂に会する成果報告会だ。参加者の体験談を直接聞ける貴重な機会であり、大いに刺激を受ける場でもある。このほか、様々な業界で働いた経験のある50人余りの大学教職員が特別講師として講義するキャリアフェスティバル、内定者から体験談を聞く「4年生の就活ストーリー」、数十の企業を大学に招いて実施する合同企業研究セミナー（会社説明会）など、あらゆる仕掛けで学生の自覚と覚醒を促している。

体系化したキャリア教育の取り組みは緒に就いたばかり。ただ、「社会で活躍できる人材を育てる」という大学の理念が、幅広い業界や国内外の企業で結実するのもそう遠くないだろう。

KUAS 京都先端科学大学 KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE
〒615-8577
京都市右京区山ノ内五反田町18
www.kuas.ac.jp/